



ワイン醸造に大きな自信 コンクールで4部門入賞

葛巻高原食品加工株式会社（代表取締役社長・中村哲雄町長）が、2006国産ワインコンクールで過去最高の4部門で入賞し、喜びに沸いています。

コンクール応募ワインは過去最高の518点。同社では初の銀賞「ほたる」をはじめ、銅賞に「フォーレ赤」、奨励賞に「フォーレロゼ」「ヴィレセイベル9110白」が入りました。

8月26日、表彰式と金賞・銀賞受賞ワインの公開テイスティングが、山梨県甲府市で行われました。

大久保圭祐醸造課長代理は「赤ワインが初めて入賞し、自信をもちました」とほほをゆるめます。昨年9月から3カ月間、同社で技術交流したドイツの醸造技術者マーティンさんの助言もあり、こだわりのワインが完成。「今後も皆さんに喜んでもらえるおいしいワインづくりに励みたい」と意気込みます。

原料生産から醸造、販売まで一致団結して「こだわりのワインづくり」に取り組む社員



コンサートで心一つに 大学生の合唱を楽しむ

8月19日、葛巻中学校体育館で東北大学混成合唱団（五十嵐紹彦委員長、団員50人）のサマーコンサートが開かれ、約80人が美しいコーラスを堪能しました。

「斎太郎節」をはじめ、日本民謡や童謡など8曲を合唱。うだるような暑さを吹き飛ばすかのように、澄み切った歌声が体育館に響き渡りました。

最後は観客に交じり、心一つに「上を向いて歩こう」など2曲を歌い、合唱の楽しさを分かち合いました。

この企画は、同団のヴォイストレーナーであり、3年前まで葛巻中に勤務していた中野寛司先生の橋渡しで実現。当日は中野ファミリーの歌も披露されました。

団員と観客が一体となって楽しんだコンサート

子育てへの興味広げる 高校生がふれあい体験

8月8日、思春期ふれあい体験学習が保健センターで行われ、葛巻高校生10人が赤ちゃんや子育てについて学びました。

参加者は、小児科医の赤坂徹先生から赤ちゃんの特徴についての話を聴いたり、離乳食作りの見学や試食をしました。午後は乳児健診に訪れた赤ちゃんの抱っこ体験や育児についてお母さんへ質問をしました。

助産師を目指している深澤志穂さん(3年)は「自分の将来のために役立ちました」と興味を広げました。堀口粧未さん(3年)は親子に接し「自分もこのようにして育てられたのか」と思い、親とのコミュニケーションを大切にしていきたいと話していました。



乳児健診で赤ちゃんの測定記録をする高校生

17団体にモウモウ助成 畜産公社が地域に還元

町畜産開発公社（理事長・中村哲雄町長）は、今年2月6日に受賞した「平成17年度畜産大賞」の副賞200万円のうち、100万円を地域に還元しようと「くずまき高原牧場モウモウ助成事業」を創設しました。

応募は全部で22件。審査会は8月8日行われ、小中学校や農業関係団体、文化・スポーツ団体など17団体への助成が決定しました。事業内容も備品購入やダンス発表会、視察研修など多岐にわたっています。

同事業を活用し、早速お盆に町商工会青年部（松原順一郎部長）の「夏祭り」、UNITY.PRO（藤森康隆代表）の「葛巻ミュージックフェスタ」が開催されました。



DJ付きのミュージック・フェスタは15日の夜、モウモウ館で開かれ、100人を超す若者でにぎわいました。

利用者7万人を突破 まちの駅で朝市開催

JRバス葛巻駅1階の産直施設「協同組合まちの駅くずまき」は8月11日、初めて朝市を開きました。

お盆を間近に控え、リンドウなどの花きを中心に、朝取りの新鮮な野菜が屋外にズラリと並べられ、行き交う人が格安の品物を買って求めていました。

産直施設は平成16年9月にオープンし、まもなく2年を迎えます。昨年度の来客数は38,210人。本年8月25日現在、通算で72,000人を突破しました。組合には農家や業者など44人が加入。堀場伸男代表理事は「今後も消費者と直に触れ合い、生の声を聞きながら生産意欲を高めていきたい」と期待を込めました。



屋外に新鮮な生産物が並んだ朝市



ずぶぬれになりながら魚を追い掛ける子どもたち

お盆は魚のつかみ取り 水車の里に歓声上がる

江刈川自治会（上山操会長）と江刈川青少年育成会（伊藤次信会長）は8月15日、元町川の高家領水車付近で「イワナ・ヤマメつかみどり大会」を開催しました。

平成元年からお盆の恒例行事として毎年にぎわいをみせるこの行事には、帰省した200人を超える親子連れなどが参加。川には1,300匹あまりの魚が放されました。

大会は、幼児から年齢別にスタート。子どもたちは、川に入るとすぐにコツをつかみ、草場や石の陰に身をひそめる魚を次々と手づかみにし、盛んに歓声を上げていました。